

第一線で働くプロにクローズアップ! 気になるあの仕事について調べてみました。

シゴト図鑑

vol.9

野島 彩乃 さん(32)

PROFILE/
大分市出身。父親の転勤で四国へ。松山南高(松山市)卒。松山大薬学部で6年間学び、国家試験に合格。卒業後大分市で調剤薬局に就職。アトム薬局(大分市)に勤務し4年目。

こだわり

薬だけでなく病気や病態についての知識を増やし、飲み合わせや併用など全体的なアドバイスができるよう勉強を続けている。

気分転換

休みの日は愛猫と遊ぶ。夫と一緒に買い物や散歩を兼ねて散歩することもありフレッシュにつながっている。かんたん港園も好きな散歩スポットの一つ。

勉強法

空き時間にインターネットで研修を受け単位を取得し、認定薬剤師の資格の更新を続けている。定期的に書店で薬学の専門書を見て回り知識を広げている。

勉強法

がん専門薬剤師を目指して、現在も勉強中。書籍で学ぶほか自分の研究を進め学会で発表。研究会などに参加し外部の知識を常に取り入れる。

薬剤師

薬剤師は「薬」に関するスペシャリスト。調剤して薬を渡すだけでなく、治療のサポートや患者に寄り添い不安を取り除くコミュニケーション力も求められる。今回は大学病院の薬剤部で医療と研究に取り組む薬剤師と、調剤薬局で薬の処方や服用指導を行う薬剤師の2人を紹介。専門職の仕事に迫った。

こだわり

分からないことをそのままにしない。質問されて分からないことは調べて回答するようにしている。それでも不明なことは研究につながるかと考えている。

気分転換

香辛料から作るマーボー豆腐やバターチキンカレーなど凝った料理をするのが好き。お笑い芸人のユーチューブ動画を見るのも楽しみ。

白岩 健 さん(33)

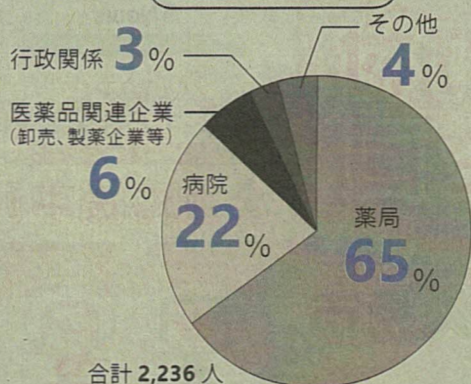
PROFILE/
大分市出身。大分舞鶴高卒。長崎大薬学部卒業と同時に国家試験に合格、同大大学院に進んだ。大分大医学部付属病院薬剤部に就職して5年目。現在薬剤副主任。薬学博士。

データで見る薬剤師 (県薬剤師会調べ2018年時点)

県内分野別薬剤師数

平均年齢(全国)

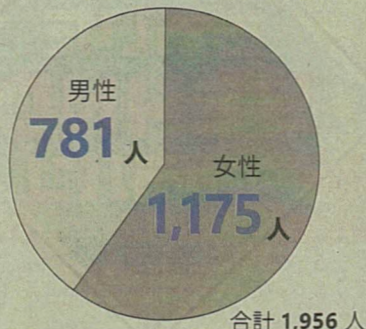
男女比



46.4 歳

薬局勤務 46.7 歳
病院勤務 41.0 歳
行政勤務 42.0 歳
医薬品関連企業 47.7 歳

(県内病院、薬局で従事する薬剤師)





ワタシたちが薬剤師になった理由。



Shiraiwa Ken

理系分野が好きで、高校2年までは工学部を目指していた。医療の漫画を読んで興味が湧き、医療関係で自分に合った仕事を考えるように。「資格も取りたい」と長崎大薬学部に進んだ。漢方薬に使われる植物から抽出した成分の効果について研究。大学病院での実習では、先輩の薬剤師が医師から信頼されている姿に刺激を受けた。

大学6年の時にフランスに短期留学し、研究に打ち込む若い研究者の姿勢を目の当たりに。「より深

く研究したい」と大学院へ進んだ。薬物治療学の研究室に所属しながら、医学部の研究室にも学内留学。甲状腺がんのメカニズムなどを研究し、博士号を取得した。出身地に貢献したいと考え、大分大医学部付属病院薬剤部に就職した。

仕事の内容は、担当する病棟の入院患者や通院患者に投与する抗がん剤の情報提供や説明、副作用のチェック。外来患者向けに、院外の薬局では受け取れない特殊な薬の調剤もする。「医師や看護師と相互に補うことで最適な治療が

できると思う。患者さんや医師からじかに感謝や信頼の言葉を言ってもらえると、専門家として関わる意義を感じる」と話す。

自身が設定したテーマでの研究を現在も続けている。患者の血液に含まれる薬の濃度を測り、効果と副作用との関係を分析。論文作成や学会発表の資料作りも進めている。「研究が認められれば、より安全かつ効果的な治療ができるようになる」。研究結果の臨床へのフィードバックを願い、専門性を高め続けている。

中学生の頃「何かの専門職になりたい」と考え始めた。家族には医療関係者がいなかったが、薬剤師について母から教えてもらい「知識や資格で人の役に立てたら」と進路を決めた。理系科目が好きで理数科のある高校に進学。入学当初から目標を定めていたこともあり推薦入試を選択。「大学入試の時、英語、数学、理科、特に化学は力を入れた」

大学5年の時、病院と調剤薬局でそれぞれ2カ月半実習。より患者と近くで話ができる職場とし

て、調剤薬局を就職先に選んだ。実際に仕事を始めてみると「時間のない患者さんもおり、対応には瞬発力が必要。薬局ごとに置いてある薬が違ったり、同じ薬でも成分名と商品名が違っていたりして、覚えることも多い」と苦心している。実は薬を飲むのが苦手という一面も。

最近では医師や看護師、薬剤師がチームで在宅医療に取り組んでおり、医師からの処方箋を基に調剤した薬を、患者の自宅や入所施設に持って行くこともある。薬の

残り具合や服用の様子を確認して指導をしたり、医師へ伝えたりする役割も果たす。

今後は「経験を重ねて知識を増やし、先輩の薬剤師のように観察力を磨きたい」。何度も顔を合わせる患者に状態を尋ね「よくなったよ」という笑顔を見るとやりがいを感じるという。「理由を理解して安心して薬を飲んでもらいたいので、薬の説明はもちろん、医師の処方の意図も合わせて伝えたい」と日々患者に向き合っている。



Nojima Ayano

薬剤師になるには…

「国家試験」に合格すること。

大学の薬学部で6年間、薬剤師養成課程を修了することで国家試験の受験資格が得られる。以前は4年制だったが、医療技術の高度化や医薬分業の進展等に伴い2006年から6年制に延長された。病院での臨床実習や薬局の実務研修などが長期間課せられ、実務が重要視されるようになった。

試験は厚生労働省が年1回実施。薬学の専門知識のほか、法規や倫理が問われる。昨年度の合格率は69.58%。合格すると薬剤師免許が交付される。

薬学部は他の学部と比較すると学費が高い傾向。国公立大では学費が抑えられるが、定員は少なく競争率が高い。私大の場合6年間で学費は1千万円以上必要になる。

目指す人へ アドバイス



県薬剤師会専務理事

中芝高彦 さん(53)

[なか薬局代表取締役]

高齢化の進展などから、医療分野に欠かすことのできない専門職としてさらにニーズが増えている職業。病気の治療や健康維持に欠かすことのできない薬だが、使い方や量を誤ると人命に関わる場合もあるためミスは許されない。情報を患者に対して分かりやすく正確に説明することが求められる。抗体や遺伝子など、医療や医薬品の研究が高度化しているため、最先端の技術を理解し、知識の引き出しを増やし続けることが重要。

最近では医療職、介護職などの他職種と連携し、地域包括ケアシステムの構築が進展。在宅訪問薬剤管理指導を行い患者をサポートすることも増えている。また「かかりつけ薬剤師」制度により介護分野、サプリメントなど幅広い知識も必要だ。大分県では薬学部のある大学がないこともあり、常に薬剤師不足が課題となっている。薬の知識だけでなく、コミュニケーション力が重要な仕事。患者の痛みを理解し、社会の役に立てるような薬剤師を目標にしてほしい。

活躍するさまざまな分野

■ 薬局勤務

医療機関から発行された処方箋に基づき医薬品を調剤。服薬指導を行う。

■ 病院勤務

病院内で主に入院患者の治療をサポート。専門性を生かし医師らとチームで治療に取り組む。

■ 医薬品卸業

医薬品の卸売企業で、医薬品の管理や副作用などの情報提供、研修などを行う。

■ 製薬会社

医薬品の研究開発や製造、販売、営業まで幅広く従事する。

■ 行政勤務

薬事監視員、食品衛生監視員、環境衛生監視員などの公衆衛生を守る仕事。

■ 麻薬取締官

厚生労働省に所属する公務員。特別司法警察官として覚醒剤などの麻薬を専門的に取り締まる。

その他ドラッグストア、学校、スポーツチーム、大学院、自衛隊、刑務所などでも資格や専門性を生かし活躍している。